

年金にこれだけ未

ところが平成の新日本人は異

創造型人生形態の新日本人が

納が多いということ

なる。第一に企業側の理由もあ

生きていく上で、日本の税制や

は、政治家やマスコミ

り、一組織に終身雇用で就業せ

諸制度が追いついていない。年

ミ人の意識の低さと

ず流動性が高まった。第二に開

金未納問題は、単に政治家や自

は言い切れない、根

業を声高に政策推進する結果、

由人の揚げ足取りをするのでな

本問題が横たわっていると考え

日本人にも自由な立場の経営者

く、「昭和の諸制度が創造型人

るほうが自然だ。それは自由に

つまり非組織人が増えている。

生形態の日本人に不適合であっ

創造的な人生を送ろうとする日

第三に日本人は、同時に多様な

た」と理解すべきである。

本人向けに行政インフラが未整

活動を行うようになった。

今緊急に整備すべき重要な税

備という点だ。

務上のインフラの

一つが、複数の経

一組織に属する

非営利組織（NPO）やボラ

経済活動を個人が税務上通算する

サラリーマンや公務員である日

本人は、税金は源泉徴収制度で

ンティア組織を兼務し、またネ

完全に捕捉され、年金は完べき

ットで株の売買も行い、不動産

C（有限責任会社）である。一

に納付され未納問題は発生しな

や映画に投資し、時には損失も

部で議論されている「税務上通

い。つまり昭和の日本人は一組

出す。時には政治家を志し、ま

算されない日本版「LTC」など

織に従属していることが大前提

た学校で子供に教え、農業も楽

には大局観が抜けている。

で制度が整備されてきた。農業

しみ、晩年には寄付もする、と

（日本テクノロジーベンチャー

や漁業就業者ですら組合を通じ

いった「同時創造型人生形態」

パートナース投資事業組合代表

監督官庁に管理されてきた。

が当たり前になっている。

村口 和孝